

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第261号 (2026.2.15-2026.2.22)

参加者: クイスケ、しまねこくん、宮坂愛哲、石川聡、山田真佐明、織田奇砂

丸、Nahrauderhan、輪井ゆう、あづみのマルコ、月階柚、雨声、桑

原維、ふくろうたかこ、蔭一郎、鈴木正臣、田中美穂角、汐田大輝、

笛地静恵、水の眠り、西脇祥貴、雷(らい)、真白(ましろ)といいま

す、ふくろうたかこ、涼、つきのさかな、台風のめ、空野つみき、

まじけい、akao、ゆうたま、水彩、しろとも、青海波、安藤蜜豆、砂

原妙々、季川詩音、山羊の頭、あしあと、非常口ドット、片羽雲雀、

栗井ゆずる、月波与生(四人名)

◆川柳・俳句

知らない人の送別会の凍夜 クイスケ

三〇に団塊世代監視させ クイスケ

底知れぬ所に巢を作るサロメ クイスケ

玄関に踏絵裏口にも踏絵 しまねこくん

凍夜から一羽の鶴を削り出す しまねこくん

風船をひたすら撒き散らす地雷 しまねこくん

春キャベツだけが詰まったランドセル しまねこくん

うらめしと湿布の数をかぞえてる しろとも

感情にスキムミルクをぶち撒ける 汐田大輝

真っ黒な野望が焦げてホッキ貝 汐田大輝

板の間の板を剥がして月を見る 汐田大輝

回転が不足している玉子焼 汐田大輝

トンネルの遠くきこえる藍の花 空野つみき

光芒に閉じこめられる脳の襞 空野つみき

空白のバウムテストに指が這う 空野つみき

読みかけのページの外にある昼間 蔭一郎
すでに共犯ころがるボタン電池 輪井ゆう
白湯飲んで細雪から凍夜降る 山田真佐明
雪道に大福³個忘れてる 山田真佐明
少年が旅の土産に買う木刀 宮坂変哲
すでに共犯ころがるボタン電池 ナル

*

タコ棒天くちを逸れ熱海発 石川聡
晚餐のアスピックの中鯉泳ぐ 大山 晶子
宵闇に寒々浮きし水仙よ 織田奇妙丸
沈黙だけは残さない Nichtraucherchen
幸運がアディオスと言う ふくろうたかこ
まつびるままつぷたつ鞆に手のない手相 石原とつき
連れ立ちて白線流す雪解川 鈴木正巳
野仏の霜掃いたる遍路かな 田中美蟲角
停戦に目を描いて中島みゆき 西脇祥貴
確信をぼんやりともつ運転席 雷
春風や午睡する吾子受験すみ 真白
冴え返る君のライダースが硬い Raigo
ブーツを集め親子ができた夜 ゆうたま
凍夜来る震災の疵忘れまじ まどけい
三つ星よ君等は並んで羨ましい 水彩
月のない夜に発狂する蝶々 安藤 蜜豆
ラブレターが遺書になるという覚悟 季川詩音
雪と夜に彩度を奪われふりだしに戻る 非常口ドット
春暁の夢も現も不採用 片羽雲雀

*

心音を消すためだけに飼う小鳥 月波与生

◆ 短歌

ゆつくりと沈む砂時計裏返すたびにあなたを好きになりゆく
あづみのマルコ

たとへばと前置きばかり増えてゆく本音はポケットの穴から落ちる
あづみのマルコ

「そうだった、人はいつでもひとりだわ。空の果てにはだれもないわ」
つきのさかな

花束を抱えることはないけれど人に知られず花びらになる
つきのさかな

就活で黒くした髪解いてく
午前三時のベランダの空
月階
柚

街灯の少ない合宿教習所
の字クランクは少し宇宙
月階
柚

*

幸福の形整えるきみとぼく、どこにあるのか右脳パン屋さん
雨声

花冷えの凍土に咲いた花一輪あはれ真白の闇に沈まん
桑原雑

ひろかけらひろいあつめてひととなりひとひとひととらひと
とひととき
笛地静恵

すっかりと複雑になった赤ちゃんは白いお粥をうんちに変える
水の眠り

明日から朝飲む白湯に蜂蜜と生姜とレモン絞って飲む
涼

カーテンを閉め切ったままの寝室に空を貼っても使りはこない
台風のめ

遠くでは汽笛が鳴ってる急がなきや
銀河鉄道の切符を握って
青海波

うすらひの割れぬやうにと息をして傷は静かに場所を得てゆく
砂原妙々

私を傷つけないで…云いながら及ばぬ思考あの人は何故
山羊の頭
もう一步だつて動けないの 君がいた記憶が首に絡みつく
から あしあと
融け清水この器からあふれだしあの日あおいだ空に恋々
栗井ゆずる

◆詩・短文

並んで歩く

星の夜

叶えられぬ願いを

つぶやいて

空の彼方に

溶いてしまう

ああ

さかしまに

汚してしまった

あなたは

もう願いな

と涙も忘れるのか

(山田真佐明)

◆作品評から

凍る夜は静香の脈に触れてみる 汐田大輝

〜違和感は「静香」。誰なんだと思うがこの句はドラえ
もんのキヤラを詠んだ連作の1句なので源静香野のことだ
とわかる。わかっても句の内容がまるで分らない。(月波

与生

三度目のいないいないで凍りつく クイスケ

「いないいないばあ」の「いないいない」まで3回言う
うと凍りつく呪文がかかっている。いったい何が起きたの
だろうか。(月波与生)

凍結したねるねるねを飾る アイン

「ねるねるねるね、いかにも川柳向きの言葉だが使っているのを見たことがない。こういう句ができたとき「自分は天才じゃないか」と思いますね(自分だけ?)」(月波与生)

オマエモナーオマエモナーと夜凍る しまねこくん

「2月のテーマ『凍夜』の一句。抒情的な作品が多い中この句のヤレヤレ感は貴重。ま、夜凍んなくてもいいだけどね。(月波与生)」

雪道に大福³個忘れてる 山田真佐明

「雪道に大福³個忘れてる」。どれが雪で、どれが大福か区別がつかないのかもしれない。もしかしたら、ミニ雪だるまになってしまっているのかもしれない。(季

川詩音)